

日本アジア投資株式会社 2019年3月期 第2四半期決算説明会
質疑応答 要旨

2018年11月13日（火）開催

Q1: 企画中のファンドの想定出資者にある「中国の機関投資家」とは **First Eastern** 社か？
また、ファンドサイズは？

A1: 北京で比較的大きな投資ファンドを運営している投資家であり、**First Eastern** 社 (**FE**社) ではない。**FE** 社とは、未だ協議を継続している状況である。

ファンドサイズは、具体的な金額は協議中のため開示できないが、それほど大規模ではない。当社の経験・体力に見合った、責任を持って投資を行うことのできる規模である。

Q2: 昨今、太陽光パネルの初期不良や長期性能保証についての問題が顕在化しているが、懸念は無いか？

A2: パネルの性能について特段の懸念は無い。今までのところ、重大な不具合は発生していない。

Q3: 中国経済の減速が懸念されているが、海外の投資先で評価損が発生したとあるのは、その影響か？

A3: 今回の評価損発生は、対象企業の個別の理由によるものであり、マクロ経済の趨勢の影響ではない。中国の経済的・政治的リスクは今後も高まると見ており、注視していく。ただし、ベンチャー投資という各論においては、新たな企業の誕生や成長が続くなど依然として活況を呈しており、経済減速の影響はあまり感じられない。

Q4: 今後のプロジェクト投資資産の売却方針は？

A4: 中期経営計画に基づきプロジェクト投資資産を積上げる方針であり、原則として、長期保有目的のプロジェクトは売却をしない。ただし、会社全体の収益動向を見ながら、必要な場合には、適時適切に売却を行う可能性がある。

Q5： プロジェクト資産を積上げるに当たり、太陽光の FIT 低下の影響は？積上げ予定額のうち、太陽光とそれ以外のものとの内訳は？

A5： 具体的な数値で回答することは難しいが、投資会社として採算性の観点から見ると、メガソーラーはピークアウトしつつある。当社にとっては、今後、現在建設中や企画中の案件をしっかりと完工させることが重要となる。また、バイオマスやバイオガスなど他の再生可能エネルギーへの投資も積み上げていきたいと考えている。

一方で、クリーンな電力に関する事業は社会的に重要性が高く、当社の経営理念にも合致しており、今後もぜひ投資会社として関与していきたい。未だ詳細を開示できる段階ではないが、例えば、災害時のリスクにも対応できるよう、家庭用の蓄電池を活用したクリーンで分散型の電源開発を手掛けていきたいと考えている。

また、植物工場については、10月に第1号案件に投資をしたところである。本件は6~7億円のプロジェクト総額であり、負債性の資金を活用する計画。本件については、当社が主要な投資家であり、一部パートナー企業も出資する計画。今後、2号案件以下が続いていけば、一定規模の資産を積上げることが出来ると考えている。

加えて、高齢者向け施設の投資も、機会があれば取り組んでいく方針である。

Q6： パートナーとしているベンチャー企業に、ベンチャーキャピタルとして、プライベートエクイティ投資をしないのか？

A6： 一部のパートナー企業には、プライベートエクイティ投資を行っている。

当社は、設立時は「日本アセアン投資」としてアジアでインフラ投資を手掛けていたが、その後、日本のベンチャー投資へと業態を転換していった経緯がある。

現在手掛けているプロジェクト投資も、当社の2つのバックグラウンドを組み合わせたものである。

以上